

第36回 医学教育指導者フォーラム

高等教育における 観察評価とその周辺

新潟大学 教育基盤機構

斎藤有吾

20250715

観察評価について

- （教育学における一般的な）観察評価の定義と特徴
 - 学習目標に対応した具体的な発言・行動・技能に対し、それらが実際に行われたかどうかを観察して評価する方法
 - 観察による評価、観察法という表現が多く用いられる
 - 仕事の間（Workplace）とは限らない
 - 形成的評価であり、被評価者にフィードバックし成長を促すためのもの
 - 状況依存性が高い質的評価
 - 様々な評価情報の利用が推奨
 - 被評価者には振り返りと自己省察を促す

観察評価について

- 評価のタイミング
 - 技能観察：最終的な学習成果の評価
 - 発言・行動観察：授業期間を通じた継続的評価
- 観察評価の方法と対象領域

	発言観察	行動観察	技能観察
知識・理解	○		
思考・判断	○	○	
技能（スキル）			○
態度		○	

「直接見るだけ」ではなく...

- 知識や技能の獲得にとどまらず、プロセスも重視
- 観察評価といっても直接観察のみではなく...
 - 活動記録・実習記録・研修記録
 - 動画
 - 口述の面接...などの成果物や実演の記録を通すこともある

高等教育における観察評価 の導入例

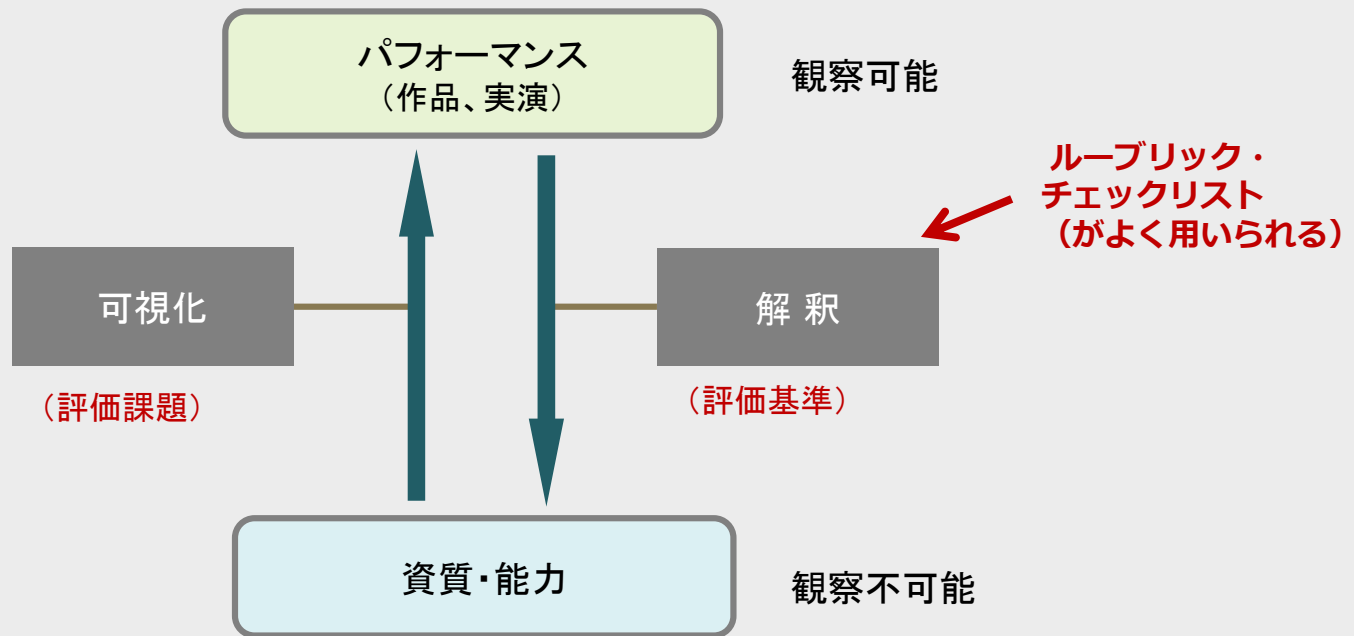
- 各分野とそこで用いられる方法

分野	一般的な方法	主な観察焦点
医学教育	WBA (Mini-CEX, DOPS...), OSCE	臨床スキル、手続き、コミュニケーション、プロフェッショナリズム、 臨床推論
教員養成	教室観察プロトコル、ビデオレ ビュー、指導実践の評価	指導の質、学級経営、生徒のエン ゲージメント、教育実践
芸術教育	スタジオ批評、パフォーマンス評 価、実技試験	創造的プロセス、技術的スキル、表 現力、作品の質、身体化された知識
工学教育	設計プロジェクトレビュー、チー ムワーク観察、PBL評価	設計プロセス、問題解決スキル、知 識の応用、チームワーク、コミュニ ケーション

パフォーマンス評価との線引は曖昧

パフォーマンス評価のモデル

- 観察不可能な資質・能力（≡コンピテンシー）を、観察可能な「パフォーマンス」から評価
 - 評価課題：ターゲットとする資質・能力が発揮されるか
 - 評価基準：ターゲットとする資質・能力の達成度を判断できるか



ルーブリック

- ルーブリック
 - パフォーマンスの質を段階的・多面的に評価するための評価基準表
 - 能力の「連続体」を測る評価基準
 - 初歩的な課題を処理できる能力～複合的な課題に対処できる能力
 - 通常、マトリックス形式で表現

	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	レベル
観点1					
観点2					
観点3					
観点4					

観点 →

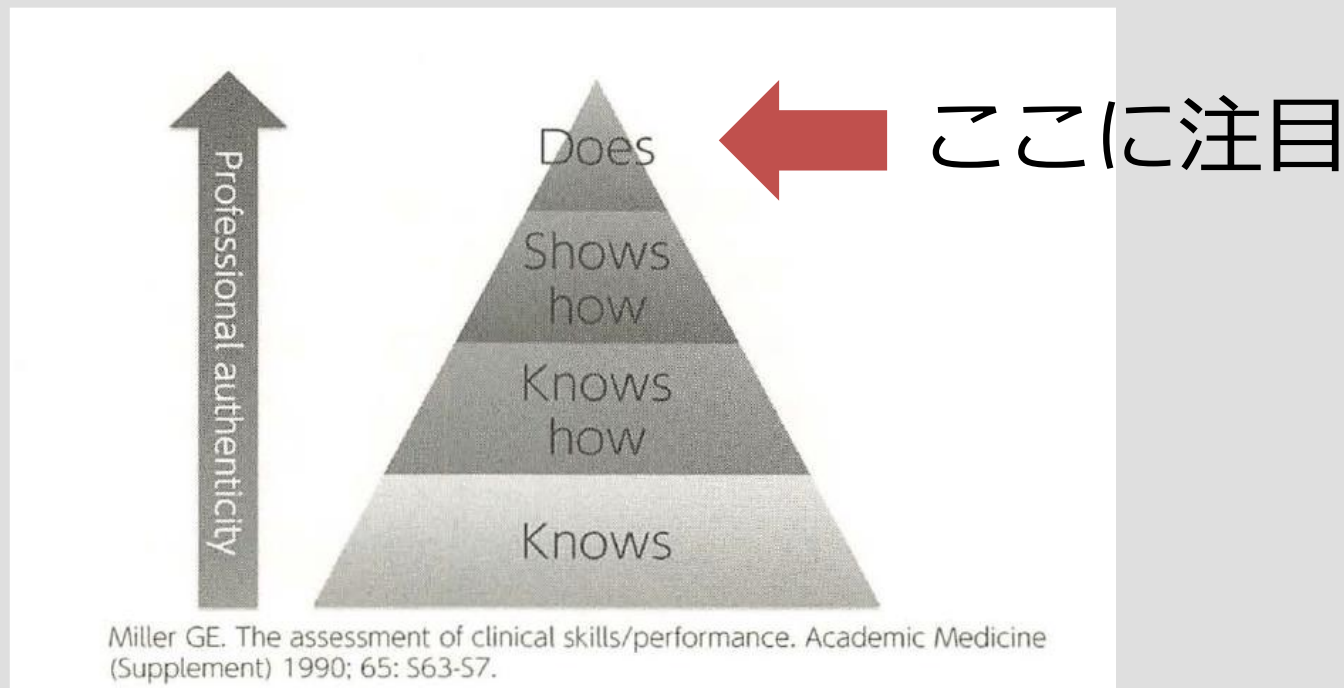
記述語 (descriptor) →

Workplace-based assessment (臨床現場における観察評価)

- 臨床現場での実際のパフォーマンスを観察法により評価
 - 観察法による評価
 - 形成的評価であり、被評価者にフィードバックし成長を促すためのもの
 - 状況依存性が高い質的評価
 - 様々な評価情報の利用が推奨
 - 医師臨床研修指導ガイドライン、医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4年度改訂版）に挙げられた資質・能力（のDOES）の評価の具体的方法

Workplace-based assessment (臨床現場における観察評価)

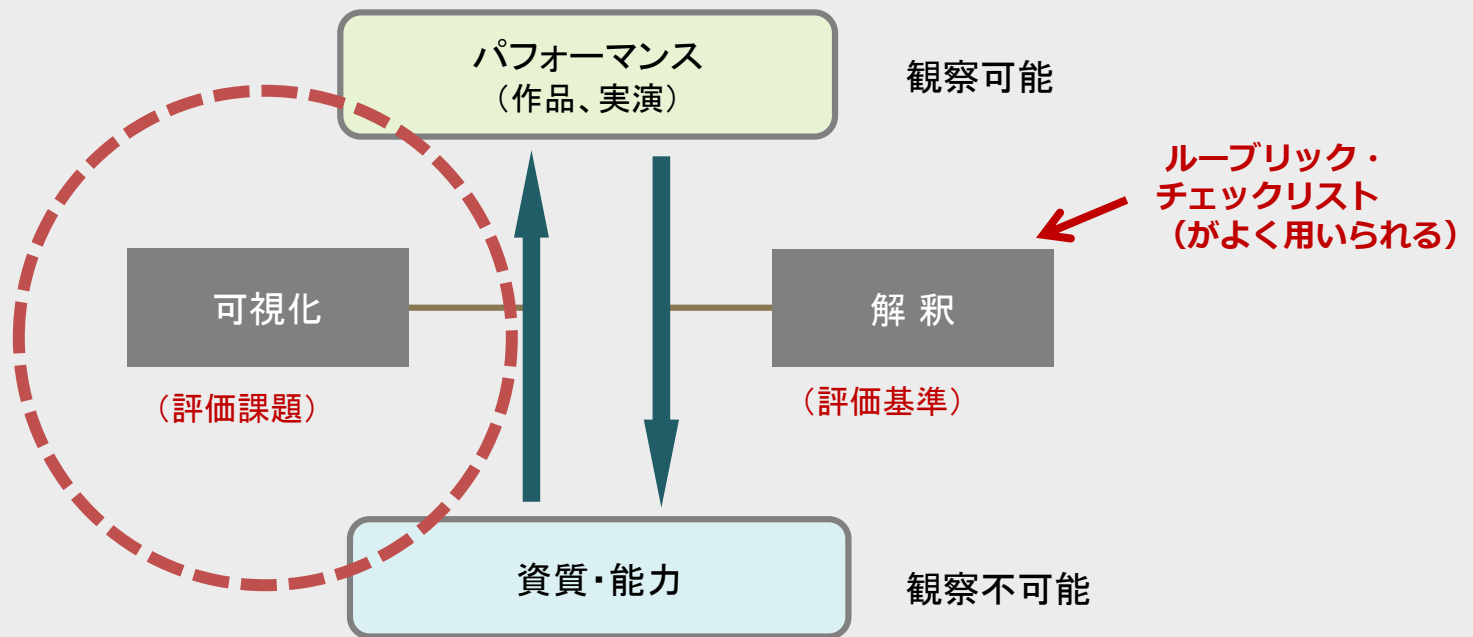
- 臨床現場での実際のパフォーマンスを観察法により評価



ミラーのピラミッド 出典：錦織・三好（2020） p.132, 図2

WBAの特徴

- パフォーマンス評価のモデルと整合的ではあるものの
 - 真正性、状況依存性が間違いなく高い
 - 評価課題が、資質・能力を可視化するものとして事前に設計できるとは必ずしも限らず、仕事の場の偶然性に左右される



WBAの特徴

- 分類としては**質的評価**であるが**総括的評価としての機能**も強調される
 - 測定論における信頼性・妥当性の視点からの言及も多い
例えばMoonen-van Loon et al. (2013) →量的評価のパラダイム

項目	量的評価	質的評価
特徴	あらかじめ定められ、構造的にまとめられた問題を用い、結果を数値化	柔軟で自然主義的な手法を用い、結果を主に文章で質的に表現
理論的基盤	教育測定学・心理測定学	解釈学・構成主義的学習論
主要目的	総括的評価 （合否判定・選抜） 序列化・ランキング	形成的評価 （学習改善） 学習プロセスの支援
評価方法例	多肢選択問題（MCQ） 共用試験CBT 医師国家試験 標準テスト リッカートスケール	パフォーマンス評価 真正の評価 ポートフォリオ評価
評価データ	数値データ →統計的分析が可能	質的データ → 数値化も可能 （ルーブリック等）
問題形式	客観式問題 細かく分割された項目 脱文脈的	自由記述式 複合的課題 統合的な問題 文脈依存的

WBAの特徴

- 評価対象となる資質・能力が多岐にわたる

資質・能力	略称	目的・定義
① プロフェッショナリズム	PR	人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく
② 総合的に患者・生活者をみる姿勢	GE	患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する
③ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	LL	安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく
④ 科学的探究	RE	医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造する
⑤ 専門知識に基づいた問題解決能力	PS	医学及び関連する学問分野の知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決する
⑥ 情報・科学技術を活かす能力	IT	発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践する
⑦ 患者ケアのための診療技能	CS	患者の苦痛や不安感に配慮し、確実に信頼される診療技能を磨き、医療の質と患者安全を踏まえた診療を実践する
⑧ コミュニケーション能力	CM	患者及び患者に関わる人たちと、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する
⑨ 多職種連携能力	IP	医療・保健・福祉・介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる
⑩ 社会における医療の役割の理解	SO	医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野なども持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める

WBAにおける新しい評価の方法

- **EPA (Entrustable Professional Activities)**
 - 委託可能な専門的な業務
 - 指導医が研修医に**特定の専門業務を任せる**（単独で行える）**ことができるかどうか**を判断
 - 専門業務と資質・能力を2次元で紐づけ、複数の資質・能力（≒コンピテンシー）を**束にして**評価する

		資質・能力（≒コンピテンシー）					
		PR	GE	...	CS	CM	...
EPAs	主治医意見書の下書き 記載をする		●				
	救急外来でトリアージ を行う	●			●	●	
	術前カンファでプレゼン を行う					●	
	褥瘡の有無を確認する	●			●	●	

EPAのレベル	
1	観察のみ
2	同室で直接監視下で実施
3	指導医が数分以内に 来られる場で実施
4	指導監視なしで実施
5	他者を指導する

WBAにおける新しい評価の方法

- EPAが必要とされる背景：従来の評価方法の課題
 - コンピテンシーリスト自体の問題点
 - 数多くの資質・能力が細分化されすぎている
 - 日常業務から乖離している
 - 理論的なものにとどまってしまう
 - コンピテンシーリストを用いた評価の問題点
 - 指導医は評価の専門家ではない
 - すべての資質・能力を細かく評価することは評価負担が相当なものになる
 - 医師が向き合うべき本当の問題から目をそらさせてしまう危険性

ten Cate, O., & Scheele, F. (2007). Competency-based postgraduate training: can we bridge the gap between theory and clinical practice?. *Academic medicine*, 82(6), 542-547.

ten Cate, O. (2014). What entrustable professional activities add to a competency-based curriculum. *Academic Medicine*, 89 (4), 691.

まとめ

- 観察評価の基本概念
 - 具体的な発言・行動・技能を観察し、プロセスも含めて評価する方法
- WBAの特徴
 - 臨床現場での実際のパフォーマンスを評価
 - 質的評価→量的評価へのベクトル
 - 評価負担、実行可能性への対応
- EPA
 - 業務に紐づけて複数の資質・能力を束にして評価するアプローチ
- 論点
 - 評価の目的に応じた適切な方法選択
 - 質的評価の機能と量的評価の機能
 - 評価負担、評価疲れ